

平成21年度第3回子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会 会議録

1 日 時 平成21年11月20日（金） 午後3時～午後4時40分

2 場 所 生駒市役所401・402会議室

3 出席者

（委員）

委員長 東谷 光雄

副委員長 大島 眞規

委員 川森 富美子

委員 辻野 トシ子

委員 山本 公一

委員 下浦 暁夫

委員 西村 徹

委員 井上 宝

委員 徳田 周子

委員 吉村 邦彦

（事務局）

教育総務部長 大津輪 幹夫

教育総務課長 峯島 妙

教育指導課長 西井 久之

教育総務課課長補佐 辻中 伸弘

教育指導課課長補佐 井上 廣

教育総務課 楠下 崇子

4 欠席者

委員 山中 和幸

5 議事内容（要旨）

(1) 第2回検討委員会の会議録の承認

(2) 30人学級編制の今後の方向性について

(3) 学力育成に関する方策について

(4) その他

(委員長) 30人学級編制の今後の方向性については、前回、2年生の学級編制を考えるにあたって、具体的な数字等、資料を提供していただくということで終わっていただいたので、本日は、事務局から事前に資料と事務局案を配布していただいております。ご一読いただいていると思いますが、30人学級編制については、本日の会議の中で結論を得たいと考えていますので、よろしくお願いします。

それでは、事務局から簡単に説明をお願いします。

(事務局) 前回、30人学級から40人学級へ移行する過程として、段階的に人数を増やしてはどうかというご意見をいただきましたので、事務局で1クラス35人で試算したものを資料としてご用意しました。実際に学級編制を行うとなれば、30人から35人の間で推移すると思いますので、事務局案では30人程度学級という表現にしております。

なお、このような幅をもたせた形での学級編制の実施は、他市町村でも例があるようです。

(委員長) これまでの会議の中で、30人学級では15人や16人のクラスが出来る可能性があり、競争心や人間関係を築くという観点から、集団としてふさわしい人数かどうかという議論がありましたが、一方で40人では多すぎるという意見もありました。

また、いずれ40人になるということ踏まえて、人数をなだらかに増やすことも良いのではないかとご意見もいただきました。そういったことを踏まえて、35人で試算していただいたと思います。皆さんからご意見ををお願いします。

(委員) 学級編制の話の前にお尋ねしたいのですが、私は、学校や地域の皆さんとのかかわりの中で、いろいろな方から「学年が変わると担任が変わる。変わらないで欲しい。」という話をよく聞きます。クラス編制が単年度編制であることや、学年ごとに担任が代わることについて、市教委ではどう考えていますか。

保護者の中には、30人学級編制が2年生でも実施されるなら、同じ先生が持ち上げるのかと興味を持っている人もいます。

毎年、クラス替えをするのは市教委の方針なのでしょうか。

また、担任が変わった場合、次の担任への申し送りはされていますか。

(事務局) クラス替えは、市教委が方針を示しているものではなく、校長の権限で行うものです。以前は2年続けて同じクラス、同じ担任ということもありましたが、現在では、おそらく1年ごとにクラス替えがあり、担任が変わるという形になっていると思います。

担任やクラスが子どもに合えば、2年続けて同じクラスでも良いと思いますが、いろいろな先生に出会い、友達の輪を広げていくことが大切だと思います。

次の担任への申し送りは、もちろん行っています。

(委員) おそらく14～15年前から、1年ごとにクラス替えを行うようになってきたように思います。2年続けて同じクラス、同じ担任で過ごすことは、メリットだけでなくデメリットもありますし、保護者からは、「この先生が良い」という話だけでなく逆の話も聞きます。

(委員) しかし、「1年が過ぎ、ようやく子どもが担任の先生になじんだのにクラス替えになり、先生が変わってからだめになった。」という話も聞きます。

(事務局) クラスを変えて欲しい、担任を換えて欲しい、あの子と別のクラスにして欲しいなど、個別の要望が多くなってきているのですが、保護者の思いどおりにすることはできません。人事異動もありますし、学校長がよりよい教員配置を考えながら、クラス替えを行っていると思います。

先ほどから話が出ているように、担任や友達も含めた他者とのかかわりを大切にしながら、子どもたちが社会性を身につけていくことが大切だと考えています。

(委員長) 2年続けて同じクラスというのは、子どもたちとしっかりした関係が築けていけば、担任にとっても2年目は楽かもしれません。しかし、毎年クラス替えをすることは新たな関係を築くことになりますので、その分緊張感を持って、子どもたちに望むことになると思います。

(委員) では、クラス替えがあつて2年生から35人学級になった場合、人口増加が考えられる地区でも教室は確保できると想定されますか。

(事務局) 事務局では、住民基本台帳をもとに、0歳から6歳までの学校ごとの推計を平成26年分まで出しております。ここ数年は微増、もしくは横ばいと思われませんが、平成23年から24年がピークで、その後は減っていくと思われまふ。住民基本台帳をもとにしていますので、開発等による社会増は考慮していませんが、急に減ることはないと思います。

人口増加が見込まれる地域としては、けいはんな線の沿線や西白庭台等での宅地開発の影響から、壱分、生駒台、あすか野小学校区が考えられますが、生駒台小学校は昨年増築しましたし、あすか野小学校はある程度の余裕がありましたので、壱分小学校が一番厳しいかもしれません。

また、教室の確保という点では、特別支援学級の教室が他校と比べて著しく差が生じ

ないように考慮する必要がありますので、施設面での課題はあると思います。

(委員) 財政的な面で耐えられるのであれば、少人数のなるべく少ない数で学級編制ができれば、ありがたいと思います。

(委員) 先日、生駒市ではありませんが、ある保護者からいじめのことで相談を受けました。先生方ががんばってくださってもなかなか解決できないこともありますし、子どもの数が少なければ、新たな友達関係が生まれることはあまり期待できませんから、クラス替えまで我慢するしかありません。親にすれば心配は募るばかりです。

学級崩壊など、2年生以上になってもいろいろと問題があると聞きますし、30人が良いとは思いますが、1年間で子どもは成長します。

子どもが成長していくことを考えれば2年生でも1年生と同じというのではなく、35人でも40人でもいいのではないのでしょうか。人数が多い方が切磋琢磨もできると思います。

(委員) 子ども同士で15人の中で解決出来なかったことは、30人でも40人でも解決できません。子どもたちを切磋琢磨できる集団までまとめ、高めるために担任がいるわけで、集団が大きければ、なおさら教師の力量や専門性が求められます。

また、いじめの問題は担任の力量だけでなく、学校全体の組織力や親の問題もありますので、一概に学級規模と関連があるとは言えません。

いろいろな個性と力量をもつ教師集団がいて、その中できめ細かく子どもたちを見守り育てていくためには、まずは目が届くような少人数の集団でという考えから、全国的に1クラスは30人という流れになっています。子どもの発達を考えても、2年生は生まれ月によって、まだまだ個人差が大きく、一人ひとりを丁寧に見ていかねばなりません。現場を預かる者としては、2年生までは、30人以下の集団の中で育ててやりたい

というのが切実な願いです。

(委員) 何人が良いとはっきりとは言えませんが、現行のままでは1年生が30人、2年が40人となるとなり、15～16人のクラスがいきなり40人近い人数になることもあり得ますので、環境の変化に子どもたちがついていけるのかどうか心配されます。そういう点では、ある程度段階を踏んで人数が増えていく方が、子どもたちも徐々に集団に慣れていくので良いと思います。

ただ、30人と35人で試算した資料を見ると、クラスの増減に影響を受ける学校は少なく、どちらもあまり差はないように思います。

(委員) 北と南で小規模化が進んでいるようですが、南地区には3つの小学校があります。再編する予定はないのですか。

(事務局) 学校間で大きく差があれば、他市町村では統廃合を行っているようですが、本市では、学級編制が成り立たないほどの大きな差があるとは考えていません。

校区を再編するとなると、自治会など地域との結びつきも考慮しなければなりませんし、北地区は、学研北地区の開発が凍結しており将来的な展望が見えません。

現在は調整区域を設けるとともに、通学の安全という面から小学校入学時に隣接校選択制を取り入れて通学の弾力化を図っていますので、校区再編は考えていません。

(委員長) いろいろご意見をいただきましたが、試算では、30人に比べて35人の方がクラス増が少なく緩やかに増えていく感じですか。

以前、単学級は学年経営の面からも難しいというご意見もありました。

これまでのご意見を勘案して、いかがですか。

(委員) 私は、35人ぐらいがベターだと思います。

(委員) 40人学級を基準に考えているので35人という数字が出てきますが、国際的には、25人が一般的な数字です。現場の感覚としては、やはり1クラスは30人までですし、子どもたちはそれぞれ生活環境が異なりますから、まずは小集団の中で安心できる学習環境を作り、徐々に大きな集団へ移行していくべきだと思います。

15～16人という小集団の中で過ごす弊害を懸念されていますが、現行の30人から40人という、いきなり大きな集団へ移ることの方が、子どもたちにとってはハードルが高いと思います。

また、資料では30人学級を行った場合、そういう影響が出るのは2校ぐらいですし10数人といっても後半の20人に近い数字です。デメリットで捉えるよりメリットを考えてもらえませんか。

(委員) 早生まれの子どもがいるのですが、確かに小学校1・2年生の間は他の子どもたちとの差が大きいと感じました。

しかし、親としては人数の問題よりも先生が一人ひとりを見てくれて、子どもが「学校が楽しかった。」「あの先生に習ってよかった。」と思えたらそれで良いのです。

30人学級はとてありがたいのですが、30人とそう変わらない人数であれば、2年から3年生に向けて、なだらかに40人へ移行するというだけでも十分嬉しいです。

また施設のことを考えると、30人学級に併せて校舎が新しくなったり大きくなったりするわけではないので、35人までの人数であれば良いのではないのでしょうか。私も35人で良いと思います。

その他の要望としては、可能であれば学級編制に関する学校長の裁量を広げていただくとともに、先生方の負担が大きいのであれば、市費でもう少し人を増やしてもらいたいと思います。

(委員長) いろいろな意見が出ましたが、35人で良いとする意見が多いように思います。2年生は、35人をめどとした30人程度学級ということでよろしいでしょうか。

《 異議なし 》

(委員長) それでは、2年生は35人までの30人程度学級と決定します。

次に子どもたちの学力をより高めるための方策について、ご意見をお願いします。

(委員) 子どもたちの学力を考えたとき、次の4つのケースがあると思います。

- 1・実力もあり運もあり、何時も満足のいく成果を得る子
- 2・特別な努力をしている様子はないけれど、何故か結果を出せる子
- 3・努力をするけれどなかなか報われない子
- 4・やる気に乏しく結果を出せない子

先生方は、子どもたちにどのように対応されているのでしょうか。

(委員長) できないと決めつけずに、まずは、意欲を持たせることが大切です。やる気を持たせ、興味を持ってもらえるようにという思いで取り組んでいると思いますが。

(委員) 教師全員がそういう思いで取り組んでもらえれば、一人ひとり必ず成果はあがると思いますが、現実問題として、いろいろな子どもがいますので、子どもたちのことをしっかり認識した上で接してもらいたいと思います。学力育成は、それが出来てからの話だと思います。

(委員長) では、具体的な方策として何かご意見はありますか。

(委員) 私が勤務する学校では、夏期休業中に各学年で1週間程度、国語・数学・英語の補習を行っており、マンツーマンでみています。また、宿題を出した中で分からな

いことがあれば、教科によりますが3日から1週間程度、5教科を対象に質問日を設けています。中学校は、クラブ活動がありますので、クラブの合間という形ですが、小学校では同じようにするのは難しいかもしれません。

普段の取り組みとしては、週2日、学びのサポーター3人に協力してもらい、先生も1～2名入り込む形で補習を行っています。学校側としては、公立高校の入試問題の一番難しい問題を解けるぐらいの力はつけてやりたいと思います。

しかし、補習は、一斉に教えるという形では無理ですので、一人ひとりに合わせたきめ細かい対応をしなければなりませんし、教科会議や学年会議のほかクラブもありますし、今は新型インフルエンザの影響で授業の復元が大変ですので、とても忙しいです。また、中には発達障害の子どももおり、人手が足りない、余裕が欲しいと感じます。

(委員長) 補習について現状をご報告いただきましたが、この場合、正規授業の時間ではやり足りなかったとか、定着しなかったということで行っているのだと思います。これも一つの方策だと思います。

同時に並行してやるべきものとして、授業の中でより深く考えたり、理解を深めるために出来ることがあれば良いと思うのですが、何かありませんか。

(委員) 小学校の現状ですが、高学年で基本的なことが理解できていない子どもが現実にはいます。もっと分かりやすい授業をできないのか、という教師側の課題もあるのですが、担任が何とかしてやりたいと思っても、人手が足りず救えないままになってしまうことがあります。

個人的には、以前から小学校でも教科担任制をやりたいと言っているのですが、実現できていません。教科担任制は一部の教科ではやっているのですが、一度、教材研究をすれば、すべてのクラスに使えますので、子どもの反応を見ながら教え方を変えるなど授業を工夫することができます。

あとは、やはり少人数教育が有効な方策だと思います。

(委員長) 私の勤務している学校では、加配職員は少人数学級編制のために使っていますが、もう一人もらえるなら、チーム・ティーチングをしたいと思いますし、やはり人数的な余裕が欲しいと思います。

(委員) 学力のあまり高くない子どもほど、即時性が大切です。その場で「ここが間違っている。思い違いをしている。」と教えてあげられれば、すぐに気づくことができます。わかりやすく楽しい授業をするためには教師の資質が問題になりますが、補習かチーム・ティーチングかはともかくとして、リアルタイムで子どもに気づき与えるには、人員に余裕が必要です。

(委員) 保護者としても同じ意見です。子どもが1年生のときにチーム・ティーチングをされていて、保護者同士の話や子どもの感想から、担任以外の先生がもう一人いるというのは良かったように思います。先生方にすれば、他の先生がいる中で授業をするのは抵抗があるかもしれませんが、担任の先生以外にもう一人いれば、解らないときにすぐに呼んで聞けるので、子どもにとって良いと思います。

補習は、小学校の場合は下校時の安全安心の問題があると思いますが、前もって分かっていたら、保護者が迎えに行くことも可能だと思いますし、学校が何らかの形で安全を確保できると判断されれば、小・中学校にかかわらず週1回でも月1回でもお願いしたいと思います。

また、先ほどから人を増やしてほしいという意見が出ていますので、財政的には難しいかもしれませんが、2年生を30人学級としないことで浮いた費用を活用して、サポーターのような先生を増やしてもらえれば良いと思います。

(委員長) この検討委員会では費用のことは関係なく、学力を上げる、定着させるための有効な手立てを考えていただき、ご意見をいただければ結構です。他にありませんか。

(委員) 私も子どもたちには、「そのとき」にサポートをしてあげることが大切だと思います。ほんの少しのサポートでも必要なときに出来れば効果は大きいと思います。

しかし、市の費用を当てにして補充を入れてもらえばいいということではなく、親が子どものことや学校に感心を持つことも大切です。個人懇談で子どもの苦手なところなど、先生から細かく教えてもらうことがありまして、先生方のご苦勞を感じるとともに私なりに家で子どものサポートをしなければいけないと思いました。

教師と保護者がもっとコミュニケーションをとって、お互い状況を伝え合うことができれば良いと思います。

(委員) 学校側が話をしたいと思っている保護者に限って、なかなか学校へは出ていけないし、話す機会をつくらないものです。先生方は、幼稚園も含めてどの学校でも大変な努力をしてくださっていますが、先生から話をされても、「ああそうですか」で終わったり、「塾に任せる、学校に任せる」という考えの人もいて、保護者側の努力が足りないと感じることがあります。

学力向上に有効な手立てとしては、補習やサポート等の人材確保が考えられますが、同時に親育もやっていかねばならないと思います。

(委員) 少人数指導など、難しいところをその場で聞けるということも大切ですが、大阪市では教員を目指している大学生を有償で雇い、希望者を対象に学童保育の時間に勉強をしています。学習意欲の向上や学習の習慣づけという意味での取り組みですが、生駒市でも、本当に学力の向上を目指すなら、費用がかかっても何か出来ませんか。

(事務局) 学生の有償ボランティアでしたら、市の事業として学びのサポーターという名前で、既にすべての小・中学校へ入れており、担当する業務は学校長の判断に任せています。

先ほどからもっと人を増やして欲しいという要望をいただいておりますが、全体の予算もありますので、今後のことは各校の取り組みに併せて考えていきたいと思えます。

(委員) 学びのサポーターに関するアンケートや成果の調査結果はありますか。

(事務局) ありません。

実績として一番多いのは、小・中学校ともに授業の中に入り込んで生徒の個別指導にあたるというケースで、2番目は特別支援教育のサポートです。次に中学校では補習等の学力補充にあたるケースが増えてきています。

学びのサポーターの使い方については、この委員会の中で話ができれば検討はしていきたいと思えます。

(委員長) いろいろ意見をいただきましたが、実際どうするかを考えると、具体的な点で絞れていないように思えます。次回までに、事務局でまとめていただけますか。

(事務局) わかりました。学びのサポーターが何人いるか、どんな意見が寄せられているかを含めて、市費でどんなことをしているか、現状についてまとめた資料を用意するとともに、たくさんのご意見をいただきましたので、答申案についても概要をお示しできるよう取り掛かります。

(委員長) では、事務局に資料作りとこれまでの整理をお願いし、次回の会議開催について、この場で日程調整を行います。

(日程調整)

(委員長) それでは、次回は12月22日午後1時からの開催といたします。

本日はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。